



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)宮の森集合住宅新築工事	階数	地上4F 地下1階
建設地	札幌市中央区宮の森4条13丁目893-37	構造	RC造
用途地域	第一種低層住居専用地域・防火指定なし	平均居住人員	70人
建物用途	集合住宅	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
竣工年	2022年7月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	4,413㎡	評価の実施日	2022年6月20日
建築面積	1,735㎡	作成者	
延床面積	4,988㎡	確認日	2022年6月24日
		確認者	



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 0.8** ★★☆☆☆ **B-**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算

- 建設
- 修繕・更新・解体
- 運用
- オンサイト
- オフサイト

①参照値 100%  
②建築物の取組み 100%  
③上記②以外のオンサイト手法 100%  
④上記オフサイト手法 100%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm]= **0.94**

### 2-5 中項目の評価 (バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = **2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = **2.8**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項	
<b>総合</b> 利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。	<b>A 省エネルギー</b> BEI = 0.94
<b>B 省資源等</b> ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。LGSと合板(二重床)を使用している。	<b>C 緑化</b> 特になし。
	<b>D 蓄処理</b> 特になし。

4 ほかの認証・評価制度の利用	
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	なし
BELS認証	なし
LEED認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用	なし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016 (ver.1.4)		■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0					
(仮称)官の森集合住宅新築工事		■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)					
スコアシート		実施設計段階					
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質							2.7
Q1 室内環境				0.40		-	2.8
1 音環境			4.0	0.15	3.3	1.00	3.6
1.1 室内騒音レベル			3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音			5.0	0.50	3.6	0.50	
1 開口部遮音性能		開口部遮音性能: T-2以上。	5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能				-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	0.20	
1.3 吸音				-		-	
2 温熱環境			1.6	0.35	2.4	1.00	2.0
2.1 室温制御			2.2	0.50	2.6	0.50	
1 室温			3.0	0.63	3.0	0.63	
2 外皮性能	省エネ		1.0	0.38	2.0	0.38	
3 ゾーン別制御性				-		-	
2.2 湿度制御			1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式			1.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境			2.4	0.25	2.7	1.00	2.5
3.1 昼光利用			3.0	0.30	2.0	0.30	
1 昼光率			3.0	0.60	1.0	0.50	
2 方位別開口				-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備	省エネ		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策			1.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御	省エネ		1.0	1.00	3.0	1.00	
2 映り込み対策				-		-	
3.3 照度			3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御			3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境			3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策			4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気			3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量			3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				-		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視				-		-	
2 喫煙の制御				-		-	

Q2 サービス性能			0.30	-	-	2.8	
<b>1 機能性</b>			<b>2.4</b>	0.40	<b>2.6</b>	1.00	<b>2.5</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>			<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60	
1	広さ・収納性			-		-	
2	高度情報通信設備対応			-	3.0	1.00	
3	バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>			<b>1.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)			-	3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース			-		-	
3	内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
<b>1.3 維持管理</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>			<b>2.9</b>	0.30		-	<b>2.9</b>
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>			<b>3.0</b>	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>			<b>2.8</b>	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
<b>2.4 信頼性</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>				-	<b>4.2</b>	0.50	
1 階高のゆとり		階高: 3.9m以上。		-	5.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				-	3.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	1.00		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>2.4</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>	緑化		<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>	緑化		<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雷処理		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	<b>2.8</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	省エネ		<b>2.0</b>	0.20	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>	省エネ		<b>2.0</b>	0.10	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>	省エネ	[BE][BEIm] = 0.94 -	<b>3.6</b>	0.50	-	-	<b>3.6</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価				-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ			-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>2.2</b>	0.20	-	-	<b>2.2</b>
1.1 節水			<b>1.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			-	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.8</b>	0.60	-	-	<b>2.8</b>
2.1 材料使用量の削減	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	LGSと合板(二重床)を使用している。	5.0	0.20	-	-	

<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒	省資源		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>2.8</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	省資源		<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.4</b>	0.33	-	-	<b>2.4</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>	省資源		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>	省資源 悪化 軽減		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>2.7</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理		2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	0.8	BEEランク	B <sup>-</sup>
建物名称	(仮称)宮の森集合住宅新築工事				
建物用途	集合住宅				
延床面積	4,988.1 m <sup>2</sup>				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★☆	<p>省エネルギー性能</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★☆☆☆☆	

## 3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー ( 最高点 23.5 最低点 7.4 )		合計 13.0点 /23.5点	
Q1 温熱環境	スコア 0.3 /1.4	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア 1.6 /4.0
Q1 光・視環境	スコア 0.7 /2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア 0.8 /2.0
		LR1 設備システムの高効率化	スコア 7.2 /10.0
		LR1 効率的運用	スコア 2.4 /4.0
B 省資源等 ( 最高点 23.7 最低点 7.7 )		合計 13.6点 /23.7点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.6 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア 5.0 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.4 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア 1.5 /1.9
		LR3 地球温暖化への配慮	スコア 3.0 /5.0
		LR3 地域環境への配慮	スコア 2.1 /4.4
C 緑化 ( 最高点 15.3 最低点 3.1 )		合計 6.9点 /15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 0.9 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.0 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 3.6 /6.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.4 /2.3		
D 雪処理 ( 最高点 3.0 最低点 0 )		合計 0.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア 0.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数